

一般質問

市政問をう!

◎一般質問とは、議員が市政全般について市長など執行機関の考えをただし、報告や説明を求めることです。
◎ここに掲載したのは要約で、会議録に基づき議員本人が編集したものです。
◎詳細は会議録（今回の会議録は、12月頃からホームページ、図書館、各コミセンにて公開）またはインターネット議会中継をご参照ください。

氏名	質問の要旨	氏名	質問の要旨
川野栄美子	1 プレミアム商品券（地方創生）について 2 「活力、誇り、人を育む水と緑のまち川郷おおかわ」を活かしたまちづくりと観光行政について	馬淵 清博	1 大川市の公園の管理について 2 家屋全棟調査の進捗状況について
遠藤 博昭	1 大川市の空き家対策について 2 プレミアム商品券について	岡 秀昭	1 向島ポンプ場の耐震化対策はどうか 2 大川市の上水道布設管について
永島 守	1 市民の政治意識と啓発、緊急政策について	篠島かおる	1 「大川市の文化行政」について 2 「窓口業務のコンビニ活用」について 3 「明治橋交番移転問題の進捗状況」について
宮崎 稔子	1 子どものいじめ問題の取り組みについて 2 18歳選挙権実施にあたっての主権者教育の取り組みについて 3 プレミアム商品券の取り組みについて	石橋 忠敏	1 公園の整備について 2 葬祭場の使用について 3 強制排水ポンプについて 4 要介護者に対する災害時の避難について

要望 電気柵はホームセンター等で手軽に手に入るため、市内にも電気柵を設置されている所はある。園芸作物関係で、ビニールハウスを破るタヌキやイタチが大川も増えており、電気柵を使われているので、安全に配慮し、適切な指導をお願いしたい。

問 シティセールス事業費に関し、その成果は。

答 シティセールス事業で色々なPRを行っているが、その一つとして、吉本興行の協力を得て大川を舞台とした映画を制作し、沖縄国際映画祭でPRを行うことができた。その繋がりで、吉本興行のタレントがTVに出演し、大川のPRをしていただいている。更に、春の木玉つりはものすごく人数が増えているとことで、大川市役所がシティセールスに力を入れている成果であると業界の方々は肌で感じていただいており、情報発信力が少しずつ付いてきているように思う。

要望 介護を必要とする方や医療行為を必要とする方々は、避難したくても避難できない状況にあるので、早急に医療、介護、福祉施設等と災害協定を結び、災害時に備えてもらいたい。さらに、自主防災組織設立時に配付されている防災用品等については、災害時に即対応できるように定期的な点検や自主防災組織への適切な管理指導等を行ってほしい。

問 就学援助費について、以前は民生委員が家庭調査をして認定されていたが、現在はどうのように認定しているか。

答 現在は、学校を通じて学校教育課に申請してもらい、家庭の収入状況の確認を行い認定している。家庭環境に関しては各学校長が状況を把握している。

問 申請された全てを認定しているのか。

答 収入状況によるので認定にいたらない場合もある。

要望 必要な人が援助を受けることができるように認定審査については厳密に行っていただきたい。

問 中央公園ナイター設備は、照明の約3分の1が点灯しておらず、今後の対応は。

答 全体で約64パーセントしか点灯していない状況であるため、今後、利用に支障のないよう修繕をしていきたい。

要望 筑後川総合運動公園のバスケットやサッカーのゴールネットは、スポーツ大会等に筑後地区や県外から多くの人に来ていただいている場所であるので、設備を改善していただきたい。

（総括）

要望 外部評価制度は、現在行われているが、制度を活用していただきたい。

意見 補助金、委託料に関し、趣旨の重複する補助金の統合など廃止も含め見直すとともに委託のあり方についても検討すべき。



議決結果一覧

○・・・賛成 ●・・・反対
※議長は表決を行わないため、「－」としています。

付託委員会	9月定例会に付された案件 表決が分かれた案件のみ記載しています。 また、議案名は一部省略して記載しています。	議決結果	議長 古賀龍彦	総務委員会					文教厚生委員会					産業建設委員会				
				永島守	石橋忠敏	川野栄美子	石橋正毫	平木一朗	箴島かおる	岡秀昭	吉川一寿	遠藤博昭	龍誠一	宮崎稔子	内藤栄治	水落常志	福永寛	池末秀夫
厚生教	26年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定	認定	—	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
産業建設	26年度上水道事業会計未処分利益剰余金の処分	可決	—	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	26年度下水道事業特別会計歳入歳出決算認定	認定	—	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	26年度上水道事業会計決算認定	認定	—	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
特別決算	26年度一般会計歳入歳出決算認定	認定	—	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○



プレミアム商品券（地方創生）について
「活力、誇り、人を育む水と緑のまち川郷おおかわ」を活かしたまちづくりと観光行政について
川野栄美子 議員

好循環と活性化が図られたこと。

問 「活力、誇り、人を育む水と緑のまち、川郷おおかわ」を生かしたまちづくりの推進状況は。

答 本市の状況は、従業者数が21年1万7千人、26年1万6千人、5年間で千人の減。事業所総数は、21年2千700、26年2千400、5年間で300事業所の減である。こうした中、移住、定住の取り組みとして、県の事業「筑後暮らし」を実施した。25、26年度の2回、計4人が参加し、うち2人とその家族が移住した。また、総務省が創設した地域おこし協力隊を活用し3人が本市に移住されている。

問 観光行政の新たな取り組みは。

東京オリンピックの開催を見据えた外国人観光客の獲得に力を入れる。そのため、市内観光資源、地域農作物、インテリア産業等を映像などで紹介しPRを行う。

問 良かった点は何か。

答 取扱店が昨年に比べて増加し消費者の利便性の向上が図られ、商品券が早期完売し、地域経済の